

# 1 物語

1

(1) 寄  
(2) 全部  
(3) 必死  
(4) 幸福  
(5) 解  
(6) 研究  
(7) 心配

2

(1) ア  
(2) ア  
(3) ウ

3

(1) ぼんやり  
(2) 青いききよう  
(3) (例) 美しい花畑がひろがっていて、そらおそろしくなったから。  
(4) エ  
(5) イ

## 《解説》

- (1) 「鉄砲てつぽうをかついで、ぼんやり歩いていました」とあり、考えごとをしているうちに、歩きなれているはずの山道でまよってしまったことが読み取れます。
- (2) ひろびろとした野原に、一面の青いききようの花畑が続いていることがすぐあとに書かれています。今まで、ここは杉林すぎのはずだったので、おどろいて立ちすくんだのです。
- (3) このあとの「そらおそろしい」という気持ちを表すことばを用いてまとめましょう。
- (4) 「このままひきかえすなんて、なんだかもったいなさすぎます」と思うことが主な理由なので、**エ**が適切てきです。
- (5) 「ぼくの目のまえを、チラリと、白いものが走ったのです」とあり、**イ**が合います。**ア**は「立ち上がれなかった」、**ウ**は「ききようが白くなった」、**エ**は「ボールになった」がそれぞれまちがいです。

## 2 物語

1

(7) 評判 (6) 顔 (5) 頭 (4) 起 (3) 血 (2) 苦 (1) 投

2

(3) ア (2) ウ (1) イ

3

(5) ア (4) エ (3) (例) 夜に空中を飛び、体が真っ黒だから。  
(2) エ (1) イ

### 《解説》

(1) キキの乗っていたほうきは、地面にまっさかさまに落ちていきます。キキと、キキのスカートにつかまっているジジも地面に落ちそうなので、ジジは悲鳴<sup>めい</sup>をあげたのです。

(2) 「また」は、これまでも男の子が同じようなことを言ったことを表します。「いいかげんにしなさい」には、男の子が言っていることが正しくないという気持ち<sup>こころ</sup>がこめられています。

(3) 男の子は「だって、まっくらじゃないか」と言っています。また、こうもりが夜に飛びまわる動物であることも理由のひとつと考えられます。

(4) この場面が夜であることが、「パジャマを着た小さな男の子」「ぼーっとあかりがひろがり」などから、また男の子がこうもりを話題にしていることから読み取れます。「年ごろはキキと同じぐらいでしょうか」とあることから、キキと女の子はじめて会ったことがわかります。

(5) ジジはキキに向かって「こっち、こっち、枝<sup>えだ</sup>をつかんで」と言っているので、アが適切です。

# 4 説明文

1

(1) 貿易  
(2) 像  
(3) 歴史  
(4) 程度  
(5) 複数  
(6) 建設  
(7) 技術

2

(1) ア  
(2) ウ  
(3) イ

3

(1) 豊かな水のあるところ  
(2) 水のありがたさ  
(3) (例) 長さ一二キロ、一〇キロくらいで楕円形の盆地。  
(4) ラシチ  
(5) イ

## 《解説》

- (1) 直前に書かれている日本の降水量と、それによって水が豊かであることから考えます。
- (2) 人間の生存にかかわるほど降水量の少ないギリシアとは反対に、降雨にめぐまれている日本では、水のことなどほとんどの人が考えていないことを表現する部分をさがします。
- (3) 「この盆地は、だいたい」で始まる文をもとにまとめます。
- (4) 「緑したたる沃野」が広がるのは、文章後半に書かれるクレタ島のラシチ盆地です。
- (5) イはラシチ盆地の内容に合っています。アは「どこでも」、ウは「冬にはまったく雨が降らない」、エは「発電などの生活に利用している」がそれぞれあやまりです。

## 5 説明文

1

- (1) 正確  
(2) 質  
(3) 記録  
(4) 便利  
(5) 観測  
(6) 地元  
(7) 横断

2

- (1) ア  
(2) ウ  
(3) ア

3

- (1) ① ウ ② イ  
(2) (例) 炭焼きには針葉樹も広葉樹もどちらも使われたから。  
(3) 床柱をつくるため  
(4) えだうち  
(5) ウ

### 《解説》

(1) ①は、葉の落ちない針葉樹しんじゅのうちの例外をあげています。②は、特別なけしきを見せる山の具体的な例をみちびいています。

(2) 「炭焼きにはさまざまな木がつかわれた」とあり、「さまざまな木」には針葉樹も広葉樹もふくまれるので、葉の色が変わる木も変わらない木もあり、そのために秋には緑もふくめて色とりどりになるのです。

(3) 北山杉は、床とこの間に使う床柱を作るために育てられたことがこのあとに書かれています。

(4) 北山杉を育てるくふうとして、「たえずえだうちをかさね」ることがこれよりあとに書かれています。

(5) 「むかしから吉野権現よしのごんげんへおまいりをする人たちは、さくらをおそなえする習慣かんがあった」とあり、ウが適切です。アは、から松は広葉樹ではありません。イは、吉野山にはさくらが多いけれど、山全体の木がさくらかどうかは文章からは読み取れません。エは、吉野山ではさくらが多いので

針葉樹が多いとはいえません。

1

(1) 落石  
(2) 鳴  
(3) 迷  
(4) 地球  
(5) 打  
(6) 鉄  
(7) 豊

2

(1) イ  
(2) ア  
(3) ア

3

(1) 別の山  
(2) イ・エ  
(3) エ  
(4) ウ

## 《解説》

(1) 「山また山」は、どこまでも次々と山が続いていることです。一つの山をこえても、また別の山があらわれて、終わることがありません。

(2) おじいちゃんから「人生」ということばを聞かされて、おもわず「人生か」とつぶやいたことで、これまであまり考えたことのない自分のこれからが一度に心におしよせてくるような気持ちになっています。これも大人への第一歩だといえます。また「背丈せたけがのびて」は、ほんとうに身長が高くなつたのではなく、そのような気がする、つまり大人になつたように感じるということなのです。

(3) 困難こんなんを乗り越えて、子どもから大人へと成長するときのことです。

(4) 深呼吸こきゅうをするとき、「あの山を越えて行く日のこと」を考えています。ここでの深呼吸は、「あの山を越える」、つまり大人になるときを想像して、強く生きていこうという心がまえを自分なりに持とうとする動作です。

1

(1) 経験

(2) 輸送

(3) 老

(4) 破

(5) 戸外

(6) 風花

(7) 区別

2

(1) ア

(2) イ

(3) ア

3

(1) 子どもに高望みをしない

(2) イ

(3) (例) 早口でしゃべらず、本もゆっくり読むような子どもに育てるという方針。

(4) 活字中毒

(5) エ

## 《解説》

(1) ほかのお母さんのようにたくさんのことを望まず、ただ「素直な子」になってほしいことだけを望んでいます。

(2) 母自身が早口なので、同じように早口にはなっほしくないなど、自分の欠点を見習ってうけついでほしくないと思っっているのでイが合います。

(3) 母の「私が早口だったから諭したわ」のことばから、早口と本を読むスピードについてまとめます。

(4) 何かをとにかく読んでいる状態を表すことばをさがしましょう。

(5) アは、母とはぎやくです。イは、新聞が毎日届くので大人をうらやましいと思うのは、「私」自身はまだ新聞を読んていなかったからだと考えられます。ウは、母は素直な子になることを望んでいましたが、その通りになったかどうかは書かれていません。エは「私が本好きになったのは、まちがいなく母を見て育ったからだ」に合います。

1

(1) 機械

(2) 過

(3) 物資

(4) 編

(5) 羽子板

(6) 殺

(7) 弁護士

2

(1) ア

(2) ウ

(3) ア

3

(1) (例) 幼稚園に行かずに家にいたこと。

(2) エ

(3) (例) 私の申し立てを認めて、幼稚園に行かないことを母が許してくれた。

(4) ア  
(5) イ

## 《解説》

(1) ほとんどの子が幼稚園に行かずに家にいた時代だったことを読み取りましょう。その子たちと同じであったことが「私も」に表れています。

(2) 幼稚園に通いはじめて三日目にけんかさわぎがありました。けんかそのものよりも、先生からわけも聞かれずに叱られたことが「登園拒否」の直接の理由といえます。

(3) 「母は認めて許してくれました」とあります。

(4) 母が菜園の持主に謝ったのは、「私」が大将になって、まだ青いトマトをすべてもぎとってしまったことであり、幼稚園に行かないで、家にいることはありません。

(5) 「この学齢直前の幼いころのことを、私は案外と覚えています」とあり、その覚えている内容には、幼稚園での出来事やトマトをもいだことなどがあたります。アの「たよってばかりいた」、ウの「はずかしい」、エの「なつかしい」はそれぞれ書かれています。